

第1回ヤフー・ジャパン文学賞受賞

藤堂 絆さん

(本名・高橋香織さん)

インターネット検索最大手ヤフー・ジャパン主催の「ヤフー・ジャパン文学賞」に輝いた藤堂絆さん(本名・高橋香織さん、西小〜西中〜東北大学法学部4年)。このたび、ピュアフル文庫から出版された「卒業。」に「君と手をつなぐ」が掲載されました。

現役学生で小説家、話題の賞を受賞され、これからの活躍が楽しみな高橋さんの素顔にせまりました。

最初はじつと手を前に組み、緊張した様子でしたが、対談が進むにつれ、自らの小説に対する思いや将来についてなど、しつかりと語ってくれました。

市長 ようこそお越しくださいました。

昨年、受賞されたときは、取材など大変だったと思いますが。

藤堂 記者からの取材や撮影など、慣れないことが多くて緊張しました。応募のきっかけは、大学時代の思い出作り、特に大学の「外」で思い出を作ったかった。偶然、ヤフーのホームページでヤフー・ジャパン文学賞を見つけ応募し、それが受賞してしまいました。

市長 初めて書いた小説が受賞されたのは、本当にすごいことだと思います。作品は、ヤフー文学賞を受賞した「アシタ」と「聡史がい

にかっこいいな、絆はドラマに出ている女の子の役名でつい、いただいてしまいました。

市長 石田衣良さんは、女性の生き方の描写で定評があり、本人も映画に出演するなど、本当に多彩な方だと思います。特に、恋愛小説が得意分野かと思いますが、何か影響はありましたか。

藤堂 石田衣良さんの作品で最初に読んだのは少年犯罪の本で、10代の少年・少女の心情に興味があり、読んでみて共感しました。そのあと、恋愛小説を2冊・3冊と読みました。現代に合っている軽やかな感覚が好きで、寝る前によく読みます。

市長 ところで、作品は何らかの自己体験がなければ書けないと言われますが、その辺りはどうですか。

藤堂 よく言われます。今回書いた「君と手をつなぐ」は、生徒が先生に恋する物語ですが、「実際こんなことがあったの」と聞かれまます。逆に自分の事は上手く書けないし、自分が経験したことは脚色できません。現在の人物は書きにくいです。どっちかというと、自分の頭の中で人物を動かしてイメージを作る。材料はテレビやドキュメンタリーなどから拾うこと

が多いです。

市長 ピュアフル文庫「卒業。」は4集目で、今回の作家7人の中では一番若いですね。ピュアフル文庫の執筆陣には、あさのあつこさんや前川麻子さんなど、人気と実力のある人がいらっしやると思いますが、その中に入ったということは、藤堂さんの力量が評価されたのではないですか。

藤堂 正直、有名な作家の中で埋もれてしまうのではと思います。編集者との打合せでも「本当に私でいいんですか」と何度も聞きました。ずっと自信がないまま、半信半疑なまま作品を作り上げたのですが、ほかの方にはかなわないと思います。

市長 堅苦しいものだった小説も変わりつつあり、今やそれこそ携帯小説でベストセラー、百万部を突破するものもあるようです。ケータイ小説大賞も高校生が入賞したようです。藤堂さんも始めはインターネットですが。

藤堂 私もあり本を読まない学生で、最初に興味を持ったのはインターネットや携帯です。ただ、紙のほうがいいと思うときがある。高校生が書いた現代っぽい小説は読みやすく、情景が色鮮やかです。

ない日」そして、今回出版された「君と手をつなぐ」の3つだと伺っています。ヤフー文学賞の選考委員には、石田衣良さんがいるのも魅力のひとつだと思いますが。

藤堂 受賞式でお会いしました。とてもおもしろい方。テレビにもたくさん出ていて、文学を堅苦しくないものにしてくれたと思います。私に、大学生の恋愛事情を碎けた感じで尋ねてきました。

市長 石田衣良さんは、本名の石平から取ったそうですが、藤堂さんはどうですか。

藤堂 イメージだけです。藤堂は単

ただ、夏目漱石や島崎藤村などの古典をちゃんと学んで、それから読んだ方がいいと思います。現代小説だけでは不安なので、皆さんには基礎をやってから読んで欲しいなと思います。

市長 大いに参考になる部分だと思えます。現在、東北大学法学部の学生ということですが、将来の目標をお聞かせください。

藤堂 ずっと弁護士になりたいと思っていて、いずれは法科大学院に進んで、司法試験のための勉強をしたい。ただ、成績もあまり良くないので、どうなるかわかりません。今、問題になっているのは弁護士が地域に1人しかないところをゼロワン地域と呼んでいます。法律的な悩みを持つた人がいても、仙台まで出て行かなければ相談できません。仙南地域にも何か所かないとダメかなと思っています。

市長 弁護士も格差社会といわれていて、実は、弁護士は岩沼には1人もいません。ぜひ、岩沼で開業していただきたいと大いに期待しています。ただ、せっかく小説家の才能があるのにもったいない。小説家への道は考えていませんか。

藤堂 小説家だけで食べていけないから、やってみたいですが、まだ無名ですし、作品も少ないです。逆に、小説家一本では狭くなるかな、と。何かやりながらのほうが柔軟に書けると思っています。

市長 弁護士で小説家の方もいます。それこそ法学部の学生ですから、正木亮の「死刑」、ラートブルツの「法哲学」、マックスウェーバーやリストといった刑法学者の本も読むのかなと思いますが、どうですか。

藤堂 好きな友達は読んでいるかもしれない。私もベツカリーアの「犯罪と刑罰」はよく読みました。哲学的なところはすごく好きですが、それだけ読んでいると疲れてくるので、合間に現代文学を読んでいます。

市長 必要な本は読んで、しっかりと吸収されている。さて、好きな作



■プロフィール

藤堂 絆 (本名・高橋香織)

1984年生まれ。西小～西中、現在、東北大学法学部に在学中。2006年第1回ヤフージャパン文学賞に応募の短編小説「アシタ」が、選考対象4,517作品の中から一般投票で選ばれるヤフージャパン賞を受賞。これを受け、市では、平成18年3月30日に特別表彰状を授与した。好きな作家は、江國香織、石田衣良

「ビューフルアンソロジー」

シリーズ第4弾「卒業。」(ジャイブ刊)



同世代の7人の作家が、少年少女の別れ、出会い、旅立ちを描いた「卒業」の物語。

「君と手をつなぐ」ー 藤堂 絆

最後にひとつだけ、と言ったのは私のほうからだった
「私」と「先生」が過ごした短い青春の日々、少女の切ない思いを綴る短編小説。

家は江國香織さんだそうですが、たまたま本名、香織さんと同じ名前。「号泣する準備はできていた」

で直木賞を取られた売れっ子の作家ですが、友好都市のドーバー市に暮らしていたことがあるそうです。全く関係ありませんが、親近感を持ってしまいます。江國さんに「手」という作品がありますが、「君と手をつなぐ」も先生の手の細かい情景描写がありますね。

藤堂 まったくの偶然で、実は「君と手をつなぐ」を書いた何カ月かあとに江國さんの「手」を読みました。自分でも「あつ、手か」と思いました。盗作と思われるのが怖いです。

市長 内容はまったく違いますね。江國さんは短編小説が魅力の一つで、山田詠美さんも「濃縮された物語がそこにある」と評価しています。短い中にもしっかりと書いて

いる点では、藤堂さんも同じ。もし、山田詠美さんが藤堂さんの作品を読んだら、「藤堂絆エッセンスを美しい小瓶に詰めて持ち歩きたい」というような評価をされるように思います。ところで、ふるさと岩沼への思いを伺います。

藤堂 小さいころからずっと住んでいて、どんどん好きになってきました。本当に住みやすいと思います。夕方、よく母と一緒に散歩するんですが、まちの雰囲気が好き。ただ、弁護士を目指していることもあって、これからの進路によっては、おそらく岩沼を離れることになるかもしれません。でも、40歳・50歳ぐらいになったら、また戻ってきたいな、と思えるまちです。

市長 ありがとうございました。今後の活躍に期待したいと思います。